

総合型地域スポーツクラブにおけるスタッフのモチベーションについて

A study on motivation of staff members of community sports club

1K05B095

指導教員

主査 作野誠一先生

米谷 悟

副査 木村和彦先生

【緒言】

現在、「総合型地域スポーツクラブ(以下「総合型クラブ」と略す)」というクラブが世の中に広まっている。総合型クラブは、2000 年9月に文部省(現文部科学省)から公表されたスポーツ振興基本計画においてもその育成が強く叫ばれている。しかし、このクラブはさまざまな問題点を抱えている場合が多い。

今までのクラブや部活動では、少子高齢化やスポーツ環境の地域差などに対応できないことや、地域住民の交流の減少など社会的な問題を解決するために考えられたのが総合型地域スポーツクラブである。現代のような、特異な犯罪や核家族化などのコミュニティの存在が希薄化されている世の中で、このようなクラブの存在が与える影響は大きいだろう。しかし、総合型の多くは必ずしも上手くいっていないのが現状である。なぜなら、総合型クラブは非営利組織でありボランティア組織であるために、常に運営に不安定な要素を抱えているからである。運営に参加する人はほとんどの人が仕事や家庭、学生という本業というべきものがある。そして金銭的報酬のない活動であるために、スタッフの意識を総合型クラブに繋ぎ続けるのは困難である。ではどのようにすれば人々を総合型クラブに繋げることができるのだろうか。

そこで筆者は、総合型クラブが継続していくためには「モチベーション(動機づけ)」が重要であると考えた。

本研究では、大学生、主婦、社会人、行政などが入り混じったボランティア集団組織が継続していくために、ボランティアは何に動機づけられる

のか、またどのように動機づけてクラブを運営しているのかを研究課題として論究を深めていくことを目的とする。

【研究方法】

本研究では、背景が異なる総合型クラブ5クラブを対象として、調査的面接法を用いて総合型クラブスタッフの参加動機や動機づけの方法について具体的に探る。

面接調査は主に「参加するメリット」「人材育成」「継続させること」の3点について質問を行い、面接の際に、面接者が必要だと判断した場合は、回答についての追加質問や質問についての補足などをして自由回答によるデータを収集した。

【結果と考察】

5つのクラブの回答を比較した結果、総合型クラブの設立から現時点までの活動で、「人間関係」が大きな影響を及ぼすことが明らかになった。それは全てのクラブで継続のマイナス因子として人間関係について挙げられたことからわかる。また、「気心を知ること」や「会話の中で役割を決めていく」などの、日々のプラスの交流からクラブ運営のベースができあがっていることも多い。ゆえに、ボランティアの核となる人が日々の活動からコミュニケーションを重ねることが重要である。また、クラブに関わる人は様々な動機があるにせよ、継続している人はそのクラブで何らかの「実感」や「体感」をしていることがわかった。つまり、クラブはメンバーの意思を把握し、それに基づいた方策をとることによってメンバーの実感を得る機会を増や

し、それが継続につながると思われる。

しかし、どのクラブも人材育成に関してはまだ検討中であったり、手が回らない状態であったり、また育成の時期を逃していたりと、ボランティア獲得はしているがボランティアを育てることに 대해서는意識が低いことがわかった。他には、やはり若い世代は他のことに時間にとられてしまうことから、運営に関しては、主婦や定年後の方を中心に進めていくことが妥当であるとする。また、ボランティアにおいて運営の知識習得や指導技術の習得など自己成長欲求を刺激する仕組みを作ることが、新しい人材育成の方策に成りうると考えられ

た。

向陽文化スポーツクラブの T 氏が、関西の約 40 年続く垂水区スポーツクラブの会長に存続させる方法を聞いたときに、会長が「20 年くらい毎日掃除をしていれば、誰かしらついてきますよ」と述べたという。この言葉にボランティアの真の姿をみることができる。つまり、継続的なボランティア活動をすることによって、周囲は必ずついてくるし、継続していくのである。

「自ら行動する」この言葉がボランティア組織にとって重要であることを示している。